

原 著

腸結核症ノ病理解剖學的研究

(第二回報告)

肉眼的病理解剖學的病變ノ統計的觀察

東京市療養所(所長、田澤鏝二博士)

黒 丸 五 郎

目 次

- | | |
|--|--|
| <p>I. 腸結核症ニ於ケル結核性病變ノ部位並ニ程度ニ關スル統計的觀察</p> <p>1. 検査例分類</p> <p>(1) 年齢及性別</p> <p>(2) 結核性病變ノ有無</p> <p>2. 病變部位ニ關スル統計</p> <p>3. 病變程度ニ關スル統計</p> <p>4. 主要病變部ニ關スル統計</p> <p>5. 總括</p> <p>II. 腸結核症ニ於ケル結核性病變型ニ關スル統計的觀察</p> | <p>1. 觀察方法</p> <p>2. 腸全體ニ於ケル病變型ノ觀察</p> <p>3. 小腸ニ於ケル病變型ノ觀察</p> <p>4. 大腸ニ於ケル病變型ノ觀察</p> <p>5. 總括並ニ考按</p> <p>III. 細長潰瘍ト漿液膜結核性反應トノ關係ニ就テ</p> <p>1. 觀察方法</p> <p>2. 細長潰瘍數ニ就テ</p> <p>3. 細長潰瘍ト漿液膜結核性反應トノ關係ニ就テ</p> <p>4. 總括並ニ考按</p> |
|--|--|

I. 腸結核症ニ於ケル結核性病變ノ部位並ニ程度ニ關スル統計的觀察

1. 検査例分類

余ノ検査例ハ、總數 208 例デ、盡ク肺ニ結核性病變ヲ有シ、少數例ヲ除クト、皆廣汎性肺結核症ヲ有スルモノデアアル。

(1) 年齢及性別

男性ハ 162 例、女性ハ 46 例デアアル。

年齢ハ、6 歳以上、75 歳迄ノ者デアアルガ、15 歳以上、35 歳以下ノ例ガ最も多イ(年齢ハ數ヘ歳デアアル)(第 1 表參照)。

(2) 結核性病變ノ有無

208 例ヲ病變ノ有無ニ依リ分類スルニ次ノ如ク

デアアル。

第 1 表

年齢(歳)	男	女	計	年齢(歳)	男	女	計
10歳以下	0	2	2	45—49	3	1	4
10—14	5	7	12	50—54	4	0	4
15—19	28	11	39	55—59	1	1	2
20—24	41	5	46	60—64	2	1	3
25—29	35	10	45	65—69	0	0	0
30—34	22	5	27	70—74	2	0	2
35—39	11	2	13	75—79	0	1	1
40—44	8	0	8		162	46	208

第 2 表

1. 肉眼的ニ結核性病變ヲ有スル者……………184例(88.5%)
 - A、第三型乃至第八型ノ潰瘍ヲ有スル者……………168例(80.8%)
 - B、第三型乃至第八型ノ潰瘍ヲ有セザル者……………16例(7.6%)
 - a、第一型、第二型、癥痕ノミノ者……………4例(1.9%)
 - b、第一型、第二型ノミノ者……………4例(1.9%)
 - c、第一型及ビ癥痕ノミノ者……………5例(2.4%)
 - d、第一型ノミノ者……………3例(1.4%)
 2. 肉眼的ニ結核性病變ヲ有セザル者……………24例(11.5%)
 - A、肉眼的ニ癥痕ノミヲ有スル者……………3例(1.4%)
 - B、肉眼的ニ病變ヲ見ザル者……………21例(10.1%)

(B附記、一此内組織學的ニ結核性病變ヲ證明セル者……5例(2.4%)
- 備考一病型ノ定義ニ就テハ第一回報告結核性病變ノ肉眼的の所見ノ項參照。

2. 病變部位ニ關スル統計

検査例 208 例中、結核性腸潰瘍ヲ有スル 168 例ニ就キ、腸各部ニ於ケル罹患頻度ヲ檢スルト、第 3 表ニ示ス如ク、回腸ガ第一位ヲ占メ、162 例ニ達シ、之ニ次グモノハ、盲腸及上行結腸デアアル。次ハ回盲瓣、空腸、横行結腸、下行結腸、S 字部、直腸ノ順デ、十二指腸ハ最モ少イ。次ニ、小腸ト大腸トノ罹患頻度ハ、殆ド同數ヲ

示シテ居ル。

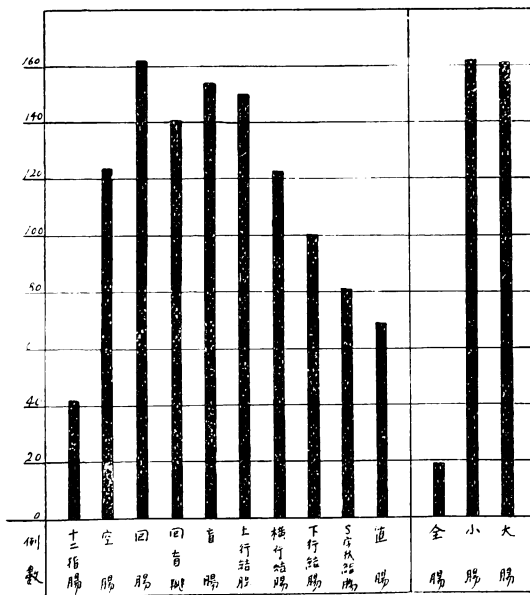
又全腸ニ病變ヲ有スル者ハ 19 例ニ達スル。

次ニ、病變ガ腸ノ一部位ニノミ限ツテ存在スル場合ヲ舉ゲルト、第 4 表ニ示ス様ニ、其數ハ甚ダ少ク、空腸、回腸、盲腸等ノミ病變ヲ有スル例ガ各 1 例アルノミデアアル。

次ニ小腸ノミニ病變ヲ有スル例ハ 7 例デ、大腸ノミニ病變ヲ有スルモノハ 6 例デアアル。

第 3 表

腸ノ結核性病變部位ニ關スル統計(168 例)



第 4 表 (168 例中)

病變ガ腸ノ一部位ニ限リテ存在スル例

部 位	例數	部 位	例數
十二指腸		横行結腸	
空 腸	1	下行結腸	
回 腸	1	S 字狀結腸	
回盲瓣		直 腸	
盲 腸	1	小 腸	7
上行結腸		大 腸	6

3. 病變程度ニ關スル統計

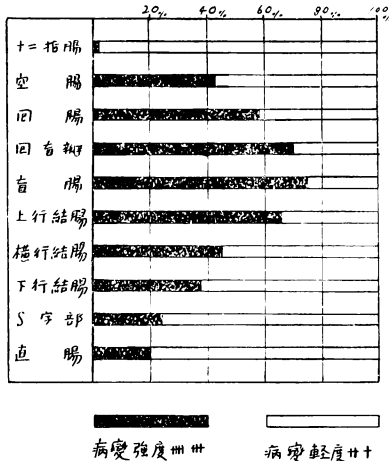
腸ニ結核性潰瘍ヲ有スル 168 例ニ就キ、其病變ノ程度ヲ比較スルニ當リ、余ハ第一回報告ノ檢索方法ノ項ニ述べタ様ニ、詳細ニ記録シテ置イタ検査例ノ病變所見ヲ仔細ニ比較シ、腸各部ノ病變程度ヲ最強度(卅)、強度(卅)、稍々輕度(卅)、輕度(+)ノ四種類ニ區別シタ。

此病變程度ノ決定ニ就テハ、潰瘍ノ

數、大キサ、融合ノ程度、結核結節ノ多少等ノ關係ト、罹患腸部位ノ解剖學の廣狹ヲ考慮シテ決定シタノデアル。

上述ノ方法ニヨリ各腸部位ノ病變程度ヲ比較シテ見ルト、第 5 表ニ示ス様ニ、盲腸、回盲瓣、

第 5 表 腸各部病變程度比較



上行結腸、回腸等デハ、其各部ノ罹患例ノ大多數(75—58%)ガ強度ノ病變(卅、卅)ヲ有スルニ反シ、十二指腸、直腸、S字部、下行結腸デハ罹患例ノ大多數ハ輕度(卅、+)ノ病變ヲ有シテキル。空腸、横行結腸デハ、病變輕度ノ例ガ稍々多イ數ヲ示シテキル。

次ニ、小腸全體ノ病變程度ト、大腸全體ノ病變程度ヲ比較シテ見タ。

168 例中、病變ガ小腸、大腸ノ何レカ一方ノミ偏スル 13 例ヲ除キ、155 例ニ就テ見ルニ、小腸ノ病變ガ大腸ニ比シ強度ナル者 61 例(此内其差異ガ特ニ著明ナ者 7 例)、大腸ノ病變ガ小腸ニ比シ強度ナル者 52 例(此内其差異特ニ著明ナ者 25 例)、小腸大腸ノ病變ガ殆ト同一程度ナル者 42 例デアル。

即小腸ノ病變ガ大腸ニ比シ強度ナル例ガ、之一反スル例ヨリ幾分多イ數ヲ示シテキルガ、小腸ト大腸トノ病變ノ間ニ差異ガ著明ナ例ノミニ就テ觀ルト、寧ロ大腸ガ小腸ノ病變ヨリ強度ナ場合ガ多イ。

次ニ 168 例ニ於テ、1 例、1 例ニ就キ、其腸各

部ノ病變程度ヲ點檢シ、各例ノ腸全體ノ病變ノ程度ヲ別ケテ見タ。

而シテ其程度ヲ最強度(卅)、強度(卅)、稍々輕度(卅)、輕度(+)ニ區別シタ。

此ノ最強度(卅)ト云フノハ、腸全體、又ハ腸ノ大部分ニ互ツテ著明ナル病變が見ラレルモノデ強度(卅)ハ之ニ次グモノデアル。病變輕度(+)ト云フノハ、腸ノ一局部ノミニ病變ヲ有スルカ、又ハ腸ノ數部位ニ輕度ナル病變ヲ散在性ニ見ルニ過ギナイモノデアル。病變稍々輕度(卅)ハ之ヨリ稍々病變ノ多イモノデアル。

以上ノ區別ニ依ツテ 168 例ヲ分類スルト、(卅) 40 例、(卅) 51 例、(卅) 42 例、(+) 35 例トナル。

4. 主要病變部ニ關スル統計

余ハ第三型乃至第八型ノ病變ヲ有スル 168 例ニ就キ、其 1 例、1 例ノ病變像ヲ仔細ニ點檢シ、其病變程度ノ最モ烈シイ腸ノ部分ヲ主要病變部ト定メ、如何ナル腸ノ部分ガ最モ主要ナ變化ヲ持ツカヲ統計のニ觀察シタ。

第 6 表ノ黒イ長方形ノ部分ハ主要病變部ヲ現ハシ、其中ノ數字ハ其部位ヲ主要病變トスル例數ヲ示シテキル。

主要病變部ヲ腸ノ一部位ノミニ見ル場合ハ I ノ欄ニ集メテアルガ、二部位乃至六部位ニ互ツテ見ル場合ハ、各 II 乃至 VI ノ欄ニ列舉シテアル、主要病變部ガ二部位乃至數部位ニ互ルト云フノハ、夫等ノ範圍内ニ於テハ、殆ト同一程度ノ病變ヲ示シ、此中ヨリ特ニ著明ナ病變部位ヲ選出シ得ナイ場合ヲ意味スルノデアル。

主要病變部以外ノ腸部位ノ病變ハ小長方形(例數ヲ示ス。1 個 1 例デアル)デ現ハシ、■ハ病變最強度(卅)及強度(卅)、□ハ病變稍々輕度(卅)及輕度(+)ヲ現ハス。

譬ヘバ、最上欄ニ就テ説明スレバ、回腸ノ中央部ヲ主要病變部トスル例ハ 2 例デ、其 2 例ノ主要病變部以外ノ腸各部ノ病變ノ程度ハ次ノ如クデアル。即チ、2 例共十二指腸ニハ病變ヲ有セス。空腸デハ、1 例ハ病變稍々輕度(卅)、1 例ハ輕度(+)デアル。回腸デハ、其上三分ノ一ノ部分デハ、1 例ハ最強度(卅)、1 例ハ強度(卅)デアル。回腸中央三分ノ一ノ部分ハ

第 6 表 腸主要病變部ト之ニ伴フ腸各部ノ病變程度ノ關係(146 例)

		小 腸				大 腸					
		十二指腸	空 腸	回 腸	回盲瓣	盲 腸	上行結腸	横行結腸	下行結腸	S 字部	直 腸
I	1			2							
	2			1							
	3			8							
	4				2						
	5					1	9				
	6							2			
II	1			1							
	2										
	3			5							
	4			2							
	5				3						
	6					1	4				
III	1					2	2				
	2										
	3			1	3						
	4			2							
	5										
	6										
IV	1										
	2										
	3										
	4										
	5										
	6										
V	1										
	2										
	3										
	4										
	5										
	6										
VI	1										
	2										
	3										
	4										
	5										
	6										

主要病變部テアル。回腸ノ下三分ノ一ノ部分ハ最強度(卅)1例、強度(卅)1例テアル。回盲瓣デハ、最強度(卅)1例、稍々輕度(廿)1例。盲腸テハ、強度(卅)1例、輕度(十)1例テアル。上行結腸テハ、強度(卅)1例テ、他ノ1例ニハ變化ガナイ。横行結腸テハ、1例ノミガ稍々輕度(廿)ノ病變ヲ有シ、他ノ例ニハ變化ガナイ。下行結腸テハ1例ノミガ輕度(十)

ノ病變ヲ有シテキル。S字部、直腸ニハ2例共病變ヲ見ナイ。

第二欄以下モ上記ノ記載ニ從フモノテアル。

検査例 168 例中、22 例ハ、病變ガ輕度デ、散在性ニ各腸部位ニ病竈存在シ、又ハ病變ガ腸ノ一局部ニ占居スル者デアル。是等ノ 22 例ヲ除キ、146 例ニ就テ主要病變部ノ觀察ヲ行フト、盲腸

及上行結腸ヲ主要病變部トスル例ガ最モ多ク、22例ニ達シ、盲腸ノミテ主要病變部スル例ガ19例、次ハ盲腸及ビ上行結腸起始部ヲ主要部トスル例、次ハ回腸下部、瓣、盲腸ヲ主要病變部トスル例ガ多イ。

次ニ主要病變部以外ノ腸部位ノ病變ヲ比較シテ見ルト、大體ニ於テ、主要病變部ニ近い腸ノ部

分ガ罹患率多ク、其病變モ強ク、之ヲ遠ザカルニ從ヒ罹患率ト強度トヲ減ジテ居ル。

次ニ此ノ146例ニ就テ、各腸部位ガ主要病變部ヲ占メル頻度ヲ調べテ見ルト、盲腸部ニ最モ頻繁デアツテ、113例(77.2%)ノ多數ニ達シ、上行結腸79例(54.0%)、回盲瓣60例(41.1%)、回腸56例(38.3%)ノ順位デアル(第7表参照)。

第7表 各腸部位ガ主要病變部ヲナス頻度(146例)

	十二指腸	空腸	回腸	回盲瓣	盲腸	上行結腸	横行結腸	下行結腸	S字部	直腸
單獨(例數)	0	0	20	2	19	3	0	0	0	0
他部ト共(例數)	0	1	36	58	94	76	16	7	1	0
合計(例數) (%)	0	0.68%	38.3%	41.1%	77.2%	54.0%	10.9%	4.8%	0.68%	0

5. 總括

(1) 余ノ材料208例ハ、少數ノ例外ヲ除クト、盡ク肺ニ廣汎性結核ヲ有スル者デアル。

男性ハ162例、女性ハ46例デアル。

年齢ハ6歳ヨリ75歳迄ノ者デ、15歳以上、35歳以下ノ例ガ最モ多イ。

腸ニ肉眼的ニ結核性病變ヲ有スル者184例(88.5%)デ、コノ内、第三型ヨリ、第八型迄ノ結核性潰瘍ヲ有スル者168例(80.8%)。第一型及第二型、癥痕等ノミテ有スル者16例(7.6%)デアル。肉眼的ニ結核性病變無キ者ハ、24例(11.5%)デアルガ、コノ内5例ハ組織學的ニ結核性病變ヲ有スル。

(2) 腸ニ結核性潰瘍ヲ有スル168例ニ就キ、其病變部位ヲ檢スルニ、回腸ノ侵サレタ例ガ最モ多ク、162例(96.0%)ニ達シ、之ニ次グモノハ、盲腸及上行結腸デアル。十二指腸ノ侵サレタ例ハ最モ少イ。

次ニ大腸ト小腸ノ罹患頻度ヲ比較スルト、殆ド同數デ、何レモ約96.0%デアル。

腸全體ニ病變ヲ有スル者ハ19例デアル。

次ニ、小腸又ハ大腸ノミニ病變ヲ有スル例ハ甚ダ少ク、7及6例デアル。

腸ノ一部位ニ限りテ病變ヲ有スル例ハ更ニ少ク、空腸、回腸、盲腸ニノミ病變ヲ有スル例ヲ各1例見ルノミデアル。

(3) 168例ニ就キ、腸各部ノ病變程度ヲ比較シテ見ルト、盲腸、瓣、上行結腸、回腸デハ、罹患例ノ大多數ガ強度ノ病變ヲ有スルニ反シ、十二指腸、直腸、S字部、下行結腸デハ、其罹患例ノ大部分ハ病變輕度デアル。空腸、横行結腸デハ病變輕度ノ例ガ稍々多イ。

次ニ、小腸全體ノ病變程度ト、大腸全體ノ病變程度ヲ155例ニ就テ檢スルニ、小腸ノ病變ガ大腸ニ比シ強度ナル例ハ、之ニ反スル例ヨリ稍々多イ數ヲ示シテキル。然シ大腸ノ病變ガ小腸ノ病變ヨリモ強度デアル例ニ於テハ通常其病變ノ輕重ノ差異ガ特ニ著明デアル。

(4) 146例ニ就キ、腸ノ主要病變部ヲ檢スルト、盲腸及上行結腸ヲ主要病變部トスル例ガ最モ多ク、之ニ次グモノハ盲腸ノミテ主要病變部トナル例デアル。次ハ回腸下部、瓣、盲腸ヲ主要病變トスル例デアル。

主要病變部以外ノ腸各部ノ病變ヲ比較シテ見ルト、大體ニ於テ主要病變部ニ近い腸ノ部分ガ罹患率多ク、其病變モ強度ヲ示シ、主要病變部ヲ遠ザカルニ從ヒ、罹患率ト強度ヲ減ジテ居ルノデアル。

(5) 以上ノ成績ヲ通覽スルニ、腸ノ各部ニ於テ罹患頻度ノ最モ多イノハ、回盲部、殊ニ回腸デアルガ、病變ノ程度ヨリ之ヲ見レバ、強度ノ病變ハ寧ロ盲腸ニ多ク見ラレルノデアル。

要スルニ文献ニ記載セラレテキル様ニ、余ノ成績モ亦腸ノ結核性病變が回盲都ニ好發スルコトニ一致シテ居ル。且病變ハ一般ニ一ヶ所ニ主要ナ、即重イ病變ヲ起シ、之レニ遠ザカルニ從テ

變化ガ輕クナツテ行ク。飛ビ離レタ部位ニ重篤ナ病變ヲ來シテ居ル例ニ接シナカッタ。在ルニシテモ極メテ稀ナモノデアアルニ違ヒナイ。

II. 腸結核症ニ於ケル結核性病變型ニ關スル統計的觀察

1. 觀察方法

余ハ既ニ本論文第一回報告ノ檢索方法ノ項ニ於テ、觀察例ノ大多數ハ、1例、1例ニ就キ、全腸粘膜ニ存スル個々ノ病變ノ形狀ヲ殆ド原形大ニ模寫シ、之ニ其病變ノ性状ヲ附記シタコトヲ述ベタ(第1圖參照)。

而シテ、之ヨリシテ、腸ノ結核性病變ヲ其形態竝ニ性状ニヨル分類ヲ試ミ、第一型ヨリ第八型マデノ8種類ニ分ケタコトヲ報告シタ(第一回報告、結核性病變ノ肉眼的所見、結核性病變ノ分類竝ニ其性状ノ項參照)。

本項ニ於テハ、觀察例ノ各ミニ於テ、如何ナル病變型ガ存スルカ、又各例ハ如何ナル病變型ヲ主

要ナル病變型トスルカ、又各病變型ノ生ズル頻度等ニ關スル統計的觀察ヲ試ミタモノデアアル。檢査ハ腸ニ結核性病變ヲ存スル184例ニ就テ行ツタデアアル。而シテ此ノ内、122例ハ第1圖ニ示ス如キ模寫圖ニ依リ各種病變型ノ數及大キサヲ正確ニ知ツタ例デアアル(病變型計算例)。此ノ外ノ62例ハ、腸各部位ニ於ケル各種病變型ノ目算ニヨツテ數、大キサ、性状等ヲ記載シテ置イタ例デアアル(目算例)。

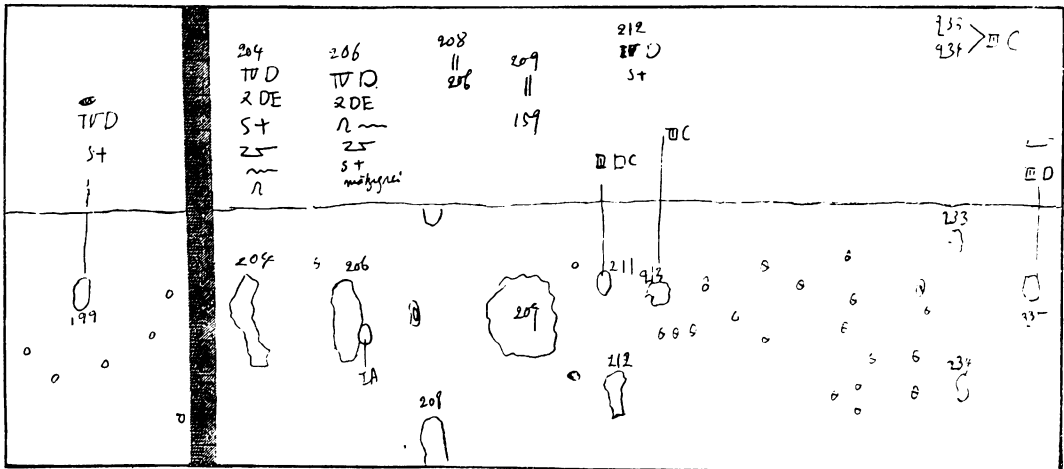
病變型計算例(122例)ニ於テハ、其1例、1例ニ就キ、其例ノ最モ主要トスル病變型ヲ其例ノ第1位病變型トシ、之ニ次グモノヲ第2位病變型トシタ。尙主要病變型ト認メ得ザル第3位病

第 1 圖 腸病變模型圖

模型圖(1)ハ、余ガ材料觀察ノ時、記載セル模型圖ヲ其儘舉ゲテ記録ヲ例示シタモノデアアル。横線ノ下ハ、腸ヲ腸間膜附著部ニ於テ前面カラ切り離シ、廣ゲタモノデアツテ、各病變型ハ實物大ニ模寫サレテキル。横線ノ上ハ、各病變型ノ性状ヲ記載シタモノデアアル。

模型圖(2)一(4)ハ、上述ノ如ク記載セル模型圖ヲ全腸ニ互ツテ舉ゲ、各病變型ノ性状ノ記載ヲ除キ、單ニ病變型別ノミヲ示シタモノデアアル。之ニヨリ各種病變型ノ發生ノ状態ヲ見ルコトガ出來ル。

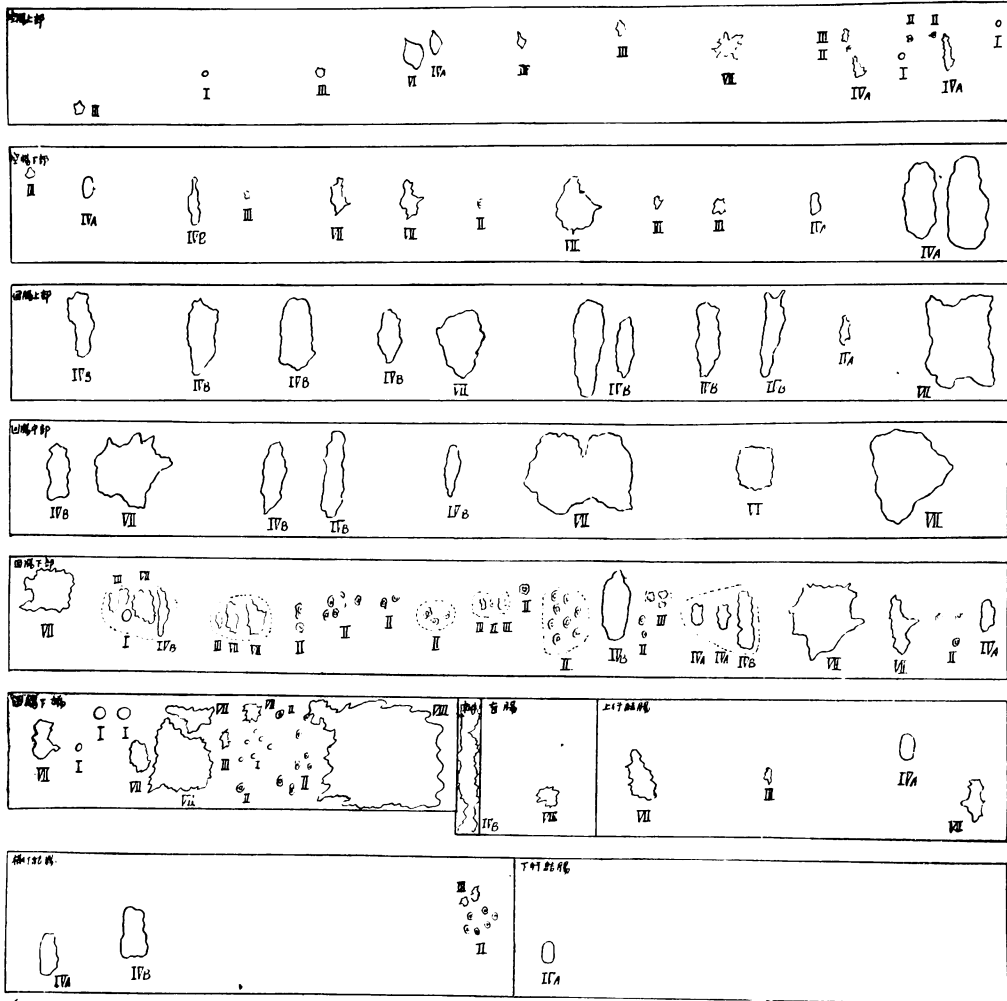
第 1 圖 (1)



第 1 圖 (2)

№. 46. S. U. 2. 27 c. j

(十二指腸・病變部)



(以下病變部)

變型及3位以下ノ病變型ヲ假リニ隨伴病變型ト命名シテ區別シタ。此區別ハ病變型ノ數ノ多少形ノ大小、廣サノ廣狹ヲ考慮シ決定シタモノデアアル。

又腸全體トシテノ主要病變型竝ニ隨伴病變型ヲ區別スルノミナラズ、小腸及ビ大腸ノ各々ニ就テモコノ區別ヲ試ミタ。

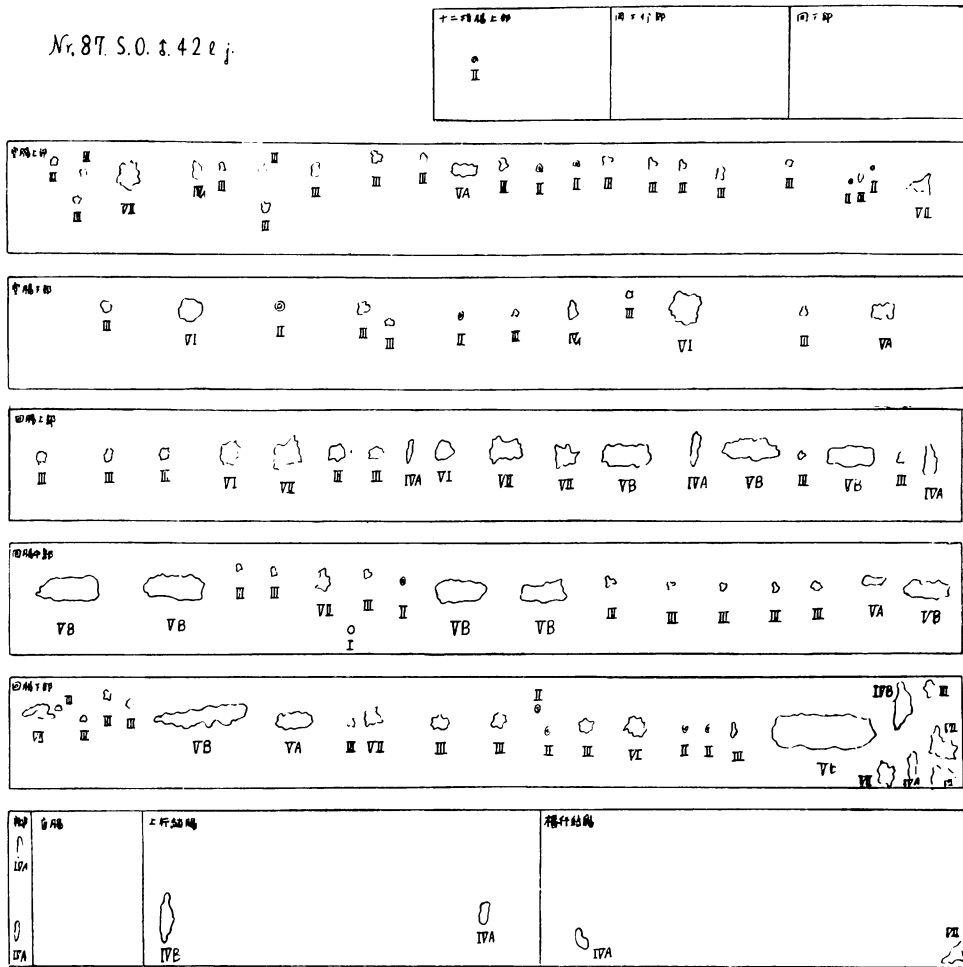
次ニ目算(62例)例ニ於テハ、主要病變型、即第1位及第2位病變型ノミヲ區別シタノデアアル。病變型ハ8種類ニ區別シタノデアアルガ、實際吾

人ガ見ル腸病變ハ必ズシモ、コノ8種ニ割然ト區別シ得ルモノデハナイ。即二種ノ型ノ移行型ト認メラル、モノガアル。カ、ル場合、本統計ニ於テハ、便宜上、之ヲ比較的ニ類似セル型ニ編入シ、計算シタ。然シ乍ラ第一型ト、第二型トハ之ヲ肉眼的ニ區別スルニ困難ナ所見ニ往々遭遇スルノデ、便宜上コノ兩型ハ同一ノ型トシテ取扱ツタ。

2. 腸全體ニ於ケル病變型ノ觀察

184例ニ就テ、腸全體トシテノ、主要病變型(第

第 1 圖 (3)



(44ヶ所見ナレ)

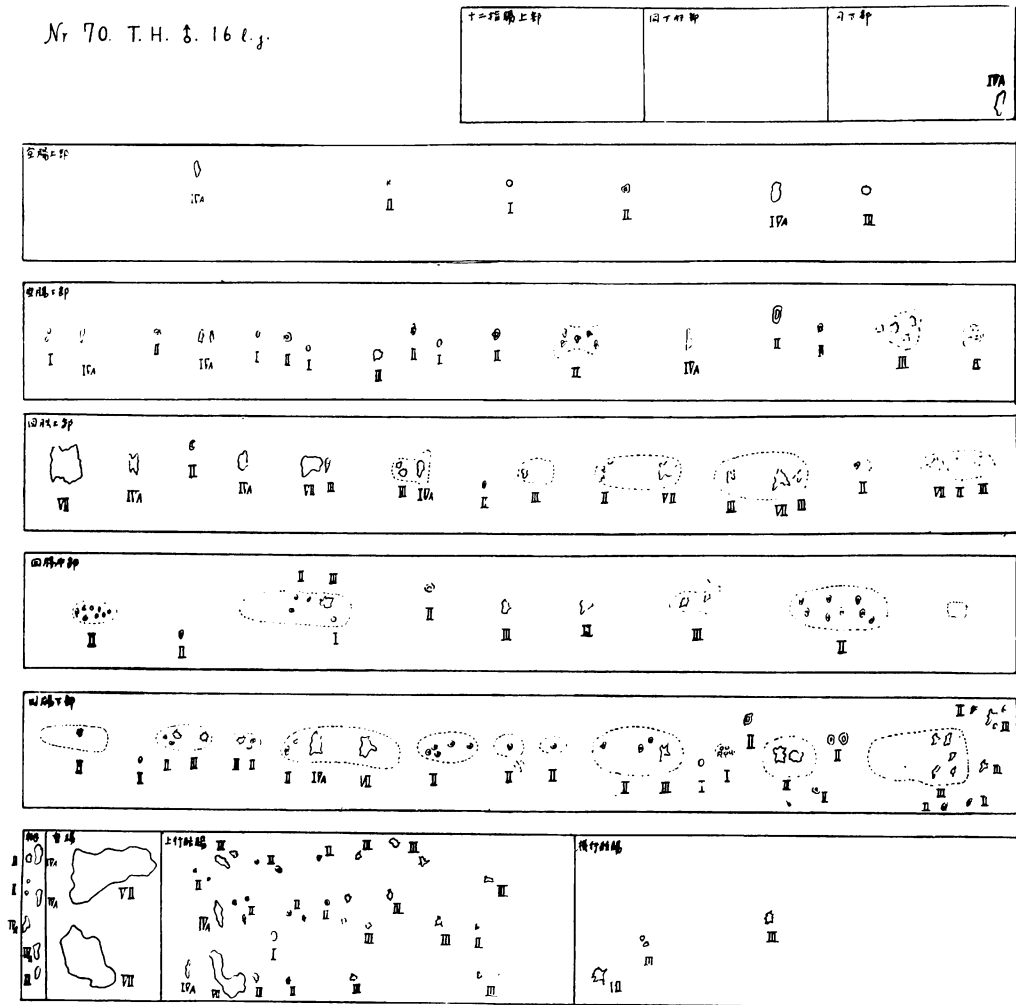
一位病變型)ヲ見ルト、第8表ニ示ス如クデア
 ル。即第一及第二型ヲ主位トスル例ガ最モ多ク、
 184例中、73例(39.6%)ニ達スル。次ハ第八型
 ヲ主トスル例デ、24.4%。次ハ、第四型(14.1
 %)デア。第七型(5.4%)及第三型(3.3%)ヲ
 主トスル例ハ少イ。而シテ、第五型、第六型ガ
 單獨デ主要病變型ヲナス例ハ無イノデア。ル。
 病變型計算例ト、目算例トノ成績ハ、大同小異
 デアル。

3, 小腸ニ於ケル病變型ノ觀察

病變型計算例 122 例中、小腸ニ病變ヲ有シナイ

7例ヲ除キ、115例ニ就テ觀察スルト、
 第9表(1)ニ就キ見ルニ、上段ノ各病變型頻度
 トハ、115例中8種ノ病變型ノ各ヲ有スル例ト
 然ラザル例ヲ分ケタモノデ、實數ハ例數ヲ現ハ
 シ、百分率ハ其115例ニ對スル比デア。ル。
 之ニ依ルト、第一型及ビ第二型ヲ有スル例ガ最
 モ多ク、89.6%ニ達シ、次ハ第三型(65.4%)、
 第四型(54.7%)、第七型(53.0%)ガ多イ。即チ
 等ノ型ハ小腸ニ病變ヲ有スル例ノ半数以上ニ
 ラレル。第五型、第六型、第八型等ヲ有スル例
 ハ少イ。

第 1 圖 (4)



(以下病変アリ)

第 8 表 腸全體ニ於ケル主要病變型ノ統計(184)例

第一位主要病變型	計算例 (122例)		目算例 (62例)		合計 (184例)	
	例數	%	例數	%	例數	%
I. II	62	50.8	11	17.7	73	39.6
III	5	4.1	2	3.2	7	3.8
IV	15	12.3	11	17.7	26	14.1
V	0		0		0	
I	0		0		0	
VI	6	4.9	4	6.4	10	5.4
VII	23	18.8	22	35.4	45	24.4

I. II. III	2	1.64	3	4.83	5	2.7
I. II. IV	0		2	3.2	2	1.08
III. IV	0		1	1.6	1	0.54
IV. VII	0		1	1.6	1	0.54
VI. VII	1	0.8	0		1	0.54
IV. VII	2	1.64	1	1.6	3	1.63
III. VII	1	0.8	0		1	0.54
III. IV. VII	1	0.8	0		1	0.54
I. II. III. IV	2	1.64	4	6.4	6	3.26
I. II. IV. VII	1	0.8	0		1	0.54
I. II. III. IV. VII	1	0.8	0		1	0.54

次ニ、各病變型ガ主要病變型トシテ存スル場合ニ就テ觀察スル。第 9 表ニ於ケル主要病變型頻度ノ欄ノ實數ハ、各病變型ヲ第一位、或ハ第二位トシテ有スル例ノ數デ、其百分率ハ其型ヲ有

スル例ニ對スル比デアル。譬ヘバ、第一型及第二型ニ就テ云ヘバ、之ヲ第一位ノ主要病變型トスル例ガ、103 例中、81 例、即 78.5%ニ相當スルノデアル。

第 9 表(1) 小腸ニ於ケル病變型ノ統計(115 例)

		第一型 第二型	第三型	第四型	第五型	第六型	第七型	第八型
各病變型	有	103 89.6%	75 65.4%	63 54.7%	38 33.0%	45 39.0%	61 53.0%	17 15.0%
	無	12 10.4%	40 34.6%	52 45.3%	77 67.0%	70 61.0%	54 47.0%	98 85.0%
主要病變型	第一位	81 78.5%	11 14.6%	21 33.3%	1 2.6%	1 2.2%	7 11.4%	1 5.88%
	第二位	8 7.76%	33 44.0%	16 25.4%	1 2.6%	1 2.2%	14 22.9%	4 23.5%
	合計	89 86.5%	44 58.7%	37 58.7%	2 5.26%	2 4.4%	21 34.4%	5 29.4%
隨伴病變型	第三位	0	12 16.0%	6 9.5%	3 7.9%	2 4.45%	8 13.1%	1 5.88%
	三位以下	14 13.6%	19 25.3%	20 31.6%	33 86.6%	41 91.1%	32 52.2%	11 64.5%
	合計	14 13.6%	31 41.2%	26 41.2%	36 94.5%	43 95.5%	40 65.5%	12 70.5%
單獨病變型	29 28.1%	0	1 1.58%	0	0	0	0	

第 9 表(2) 同上目算例ノ統計(62 例)

		第一型 第二型	第三型	第四型	第五型	第六型	第七型	第八型
主要病變型	第一位	41	12	23	1	1	3	2
	第二位	7	27	8	5	7	10	3
	合計	48	39	31	6	8	13	5

コノ表ニ依ルト、第一型及第二型ヲ主要病變型トスル例ガ最モ多ク、第一位及第二位トシテ有スル例ハ合計 89 例(86.5%)ニ達スル。然シテラ第一型、第二型ノミノ例ハ、コノ内 29 例ニ過ギナイノデ(單獨病變型ノ欄参照)、其他ノ 60 例ハ、他ノ病變型ヲ隨伴シテキルノデアル。第一型及第二型以外デハ、第三型又ハ第四型ヲ主要病變型トスル例ガ多イ。即第三型ヲ主要病變型トスル例ハ、第三型ヲ有スル 75 例中、44 例ニ達シ、第四型ヲ主要病變型トスル例ハ、第四型ヲ有スル 63 例中、37 例ニ達スル。即何レモ各ノ 58.7%ニ相當スルノデアル。然ルニ、第五型、第六型、第七型、第八型等ヲ主要病變型トスル例ハ少ク、是等ノ型ハ隨伴病變型トシテ第三位以下デアルコトガ多イ。即第

五型ハ 38 例中、33 例(86.6%)、第六型ハ 45 例中 41 例(91.1%)、第七型ハ 61 例中、32 例(52.2%)、第八型ハ 17 例中、11 例(64.5%)ニ於テ、第三位以下ノ隨伴病變型トシテ存スルノデアル。次ニ、單獨ニ見ラレル病型トシテハ、第一型並ニ第二型、及第四型デアル。即チ第 9 表下段ニ示ス如ク、前者ハ 28.1%、後者ハ 1.58%ニ見ラレルノミデアル。即チ或一種類ノ病變型ノミノ例ハ極ク少イモノデアル。而シテ第一型並ニ第二型、及第四型ノ外ノ病變型ガ單獨ニ存スル例ハナイ。次ニ、病變型目算例(62 例)ニ就テ觀察スルニ、第 9 表(2)ニ示ス様ニ、大體ニ於テ病變型計算例ニ一致スル成績ヲ得テ居ル。

4. 大腸ニ於ケル病變型ノ觀察

大腸ニ於ケル病變型ノ觀察ハ、病變型計算例 122 例中、大腸ニ病變ヲ有シナイ 11 例ヲ除キ、111 例ニ就テ行ツタ。

病變型ノ頻度ハ、第 10 表ニ示ス如ク、第四型ヲ有スル例ガ最も多ク、111 例中、68 例 (61.4%)ニ達シ、次ハ、第三型及第七型(何レモ 67 例

即 60.5%)ガ多イノデア。次ハ、第一型並ニ第二型、第八型、第六型、第五型ノ順序デアツテ、小腸ニ於ケル頻度トハ異ツテキ。即小腸デ頻度主位ナル第一型並ニ第二型ハ第四位ニ下リ、小腸デ頻度最下位ナル第八型ハ大腸デハ第五位ニ位スルノデア。

次ニ主要病變型トシテノ頻度ニ就テ觀察スル

第 10 表(1) 大腸ニ於ケル病變型ノ統計(111 例)

		第一型	第二型	第三型	第四型	第五型	第六型	第七型	第八型
各型頻度	有	59 53.4%	67 60.5%	68 61.4%	14 12.5%	25 22.5%	67 60.5%	53 47.7%	
	無	52 46.6%	44 39.5%	43 38.6%	97 87.5%	86 77.5%	44 39.5%	58 52.3%	
主類度 病變型	第一位	22 37.3%	11 16.4%	22 32.4%	0	1 4.0%	23 34.3%	36 67.8%	
	第二位	6 10.18%	20 29.8%	20 29.4%	0	0	19 28.3%	6 11.3%	
	合計	28 47.4%	31 46.2%	42 61.7%	0	1 4.0%	42 62.6%	42 79.1%	
隨類度 病變型	第三位	4 6.8%	14 20.9%	7 10.3%	0	0	3 4.47%	3 5.65%	
	第三位以下	27 45.6%	23 32.8%	19 27.9%	14 100.0%	24 96.0%	22 32.8%	8 15.1%	
	合計	31 52.6%	36 53.8%	26 38.2%	14 100.0%	24 96.0%	25 37.4%	11 20.9%	
單獨病變型	7 11.9%	3 4.47%	4 5.88%	0	0	3 4.47%	8 15.1%		

第 10 表(2) 同上目算例ノ統計(62 例)

		第一型	第二型	第三型	第四型	第五型	第六型	第七型	第八型
主類度 病變型	第一位	4	7	13	0	1	9	32	
	第二位	8	11	24	0	1	14	6	
	合計	12	18	37	0	2	23	38	

ト、第八型ガ主要病變型ヲナス例ガ最も多ク、53 例中、42 例、即 79.1%ニ達ス。而シテコノ内 8 例(15.1%)ハ第八型ノミヨリ成ル例デア。次ニ多イノハ、七型デアツテ、コノ型ヲ有スル 67 例中、42 例(62.6%)ハコノ型ヲ主要病變型トスルノデア。

小腸ニ於テ頻度大ナル第四型ハ、第四型ヲ有スル 68 例中、42 例(61.7%)ガコノ型ヲ主要病變型トシ、大體ニ於テ小腸ニ於ケルト同様ノ率ヲ示シテキ。

第三型ハ主要病變型トシテ存スル例ノ率ガ、46.2%デアツテ、小腸ヨリモ少イ。

第五型ハ主要病變型ヲ成ス例ガナク、本型ハ全部隨伴病變型トシテノミ存在ス。

第六型ハ小腸ト同様主要病變型ヲ成ス例ガ少イ。

次ニ單獨病變トシテ見ラレル型トシテハ、第八型、第一型並ニ第二型、第三型、第四型等デア。第八型ガ最も多ク、53 例中、8 例即 15.1%ニ達ス。

病變型目算例ニ於ケル成績モ之ト大同小異デア。

5. 總括並ニ考按

余ハ腸ニ肉眼的ニ結核性病變ヲ有スル 184 例ニ

就テ、余ノ分類ニヨル 8 種ノ病變型ノ頻度、竝ニ其主要トスル病變型ノ頻度ニ關スル統計的觀察ヲ試ミタ。

(1) 腸全體トシテ觀察スルト、第一型竝ニ第二型ヲ主要病變型トスル例ガ最モ多ク、次ハ第八型及第四型ヲ主トスル例ガ多イ。第七型及第三型ヲ主トスル例ハ尠ク、第五型及第六型ハ單獨ニ主要病變ヲ成ス例ガ無イ。

次ニ小腸ト大腸トヲ區別シテ觀察スル。

(2) 小腸ニ於テ各病變型ノ頻度ヲ見ルト、第一型及第二型ヲ有スル例ガ最モ多ク、次ハ第三型第四型及第七型ヲ有スル例ガ多イ。是等ノ型ハ何レモ 50.0% 以上ノ例ニ存在スル。然ルニ、第五型、第六型及ビ第八型ヲ有スル例ハ極ク少イ。

次ニ、小腸ニ於テ主要病變ヲ成ス型ニ就テ觀察スルト、第一型及第二型ヲ主要トスル例ガ最モ多ク、コノ病變型ヲ有スル例ノ 86.5% ハ此ノ型ガ主要病變ヲナシテキル。然シ乍ラ、コノ型ノミノ例ハ尠イノデ、多クハ他ノ病變型ヲ隨伴シテキル。

第一型及第二型以外デハ、第三型及第四型ヲ主要病變トスル例ガ多イ。是等ハ何レモ其病變型ヲ有スル例ノ 53.7% ニ於テ、主要病變ヲナシテキル。

然ルニ、第五型、第六型、第七型、第八型等ヲ主要病變トスル例ハ少ク、是等ハ主トシテ隨伴病變型トシテ見ラレルコトガ多イ。

(3) 次ニ、大腸ニ於ケル各病變型ノ頻度ヲ見ルト、第四型ガ最モ多ク、次ハ第三型及第七型ガ多イ。次ハ第一型ニ第二型、第八型、第六型、第五型ノ順序ニ少イ。即小腸ニ於テ頻度第一位即最モ大ナル第一型ニ第二型ハ第四位ニ下リ、小腸ニ於テ頻度最下位ナル第八型ハ第五位ニ上ツテキル。

次ニ大腸ニ於ケル主要病變型ノ頻度ヲ見ルト、第八型ガ第一位ヲ占メ、コノ病變型ヲ有スル例ノ 79.1% ハ、コノ病變型ヲ主要病變トスルノデアル。

次ニ主要病變トシテ多ク見ラレルノハ、第七型デアル。小腸ニ於テ主要病變トシテノ頻度大ナル第四型ハ大腸ニ於テモ比較的の多ク、其率ハ大體小腸ト同様デアル。第三型ハ小腸ノ場合ヨリモ率ガ少イ。第五型ハ主要病變トシテ見ラレル例ガ無ク、全部隨伴病變型トシテノミ存シ、第六型ハ主要病變ヲナス例ガ尠イ。

(4) 小腸ト大腸ニ於ケル病變型ノ差異ハ、解剖學的造構ト、腸機能ノ異ナレル關係ニヨルモノト考ヘラレル。

即小腸ニ於テ、第一型ニ第二型、第三型、第四型等ガ多ク、且主要ナル病變ヲ成シ、大腸ニ於テ比較的少イコトハ、主トシテ解剖學的造構ノ差異ニ依ルモノナル可ク、大腸ニ於テ、第七型及第八型病變ガ主要ナル病變ヲ成スコトハ、腸内容ノ停滯ニ關聯スル處大ナルモノト考ヘラレル。

III. 細長潰瘍ト漿液膜結核性反應トノ關係ニ就テ

1. 觀察方法及病變所見

腸粘膜ニ結核性潰瘍ヲ有スル場合、當該漿液膜面ニハ屢々結核結節ヲ見ル。

此結節ハ、粟粒大ヨリ小豆大ニ達シ、多クハ止針頭大乃至麻實大デアツテ、漿液膜面ヨリ稍々隆起シ、灰白色乃至灰白黄色ヲ呈スル。

之ハ潰瘍ニ相當スル漿液膜面ニ散在性ニ數個見ラレルカ、又ハ潰瘍邊縁ニ一致スル漿液膜面ニ珠數狀ニ配列シテキル。又潰瘍ニ相當スル漿液

膜面全體、又ハ之ヲ超エル範圍ニ亙ツテ不規則ニ散在シ、又ハ密生シ、往々融合ヲ示シテ居ルコトガアル。屢々此結節ハ珠數狀ヲナシテ、腸間膜附著部ノ方向ニ走り、又腸間膜面ニ迄續ク。此結核結節ヲ見ル場合ニハ、多クハ其潰瘍部ニ相當スル漿液膜面ハ充血シ、纖維素附著シ、又時ニハ其部分ノ腸壁ハ纖維性肥厚ヲ來シテ居ル。

此漿液膜ノ結節ハ、粘膜ノ潰瘍ガ小サク、新鮮

ナ場合ヨリモ、寧ロ進行シタ比較的大キイ古イ潰瘍ノ場合ニ見ラレルコトが多い。

而シテ、此結核結節ハ、結膜及粘膜下組織ニ存スル結核竈カラ淋巴管性轉移ニ依ツテ、漿液膜及漿液膜下組織ニ起ツタモノデアル。

余ハ特ニ結核性潰瘍ノ進行擴大ノ方向ト、此漿液膜ノ結核性反應トノ關係ヲ檢索センガ爲一、次ノ如キ觀察ヲ行ツタ。

余ハ第 1 回報告ニ於テ、結核性病變ヲ第一型ヨリ第八型マデニ分類シタ(結核性病變ノ肉眼の所見、結核性病變ノ分類竝ニ其ノ性状ノ項參照)。

コノ内、腸ノ長軸ニ對シテ直角方向ニ細長イ潰瘍ヲ第四型トシ、之ト反對ニ腸ノ長軸ニ平行ノ細長潰瘍ヲ第五型トシタ。而シテ是等ヲ更ニ其潰瘍ノ長サ 2 cm. 以下ノモノヲ A トシ、2 cm. 以上ノモノヲ B トシタ。

此第四型 B ト、第五型 B ニ於テ、其漿液膜ノ結核性反應ニ差異アリヤ否ヤヲ統計的ニ觀察シタ。

此反應ノ差異ト云フノハ、量の差異デアツテ、肉眼のニ、其個々ノ潰瘍ノ漿液膜面ニ、結核結節ガ多數或ハ無數ニ存スルモノヲ(卅)トシ、結節ガ極ク少數即 1—2 個、又ハ數個存在スルモノヲ(+)トシ、此兩者ノ間ニアル中等度ノモノヲ(卅)トシ、結核結節ヲ全然見ナイモノヲ(-)トシタ。勿論此差別ハ、數字ヲ以テ表ハスコトガ不可能ナノデ、大體以上ノ様ナ量の程度ヲ目算ニ依ツテ定メタノデアル。

此統計ハ、肉眼的ニ結核性潰瘍ヲ有スル 168 例中、144 例ニ就テ行ツタ。此 144 例ハ、潰瘍數

ヲ計算シタ 122 例、及潰瘍數目算例 62 例(本論文 II. 腸結核症ニ於ケル結核性病變型ニ關スル統計的觀察、1. 觀察方法、ノ項參照)中、22 例ニ就テ、觀察シタモノデアル。目算例ニ於テ、細長潰瘍ヲ有スル例ハ、特ニ其細長潰瘍ノ位置、數及性状竝ニ漿液膜ノ所見ヲ詳細ニ記載シテ置イタモノデアル。

2. 細長潰瘍數ニ就テ

144 例中、第四型 B、又ハ第五型 B ニ屬スル細長潰瘍ヲ有スル例ガ 88 例(61.1%)、全然有シナイ例ガ 56 例(38.9%)デアル。

細長潰瘍ヲ有スル 88 例中、其各例ニ存スル細長潰瘍ガ全部第四型 B デアルカ、又ハ主トシテ第四型 B デアツテ、第五型 B ハ極ク少イ例、即「第四型 B ヲ主トスル例」ハ第 11 表ニ示ス様ニ 68 例(77.2%)デアツテ、之ト同様ニ「第五型 B ヲ主トスル例」ハ 13 例(14.7%)デアル。又コノ「兩者ヲ殆ド同數ニ有スル例」ハ 7 例(7.9%)デアル。

即文獻ニ於テ腸ノ長軸ニ直角ノ方向ニ進行スル潰瘍ガ多イト記載サレテ居ル様ニ、此ノ場合ニモ、第四型 B ノ潰瘍ヲ主トスル例ガ最も多イコトヲ示シテキルノデアル。

次ニ、是等ノ例ノ細長潰瘍ノ數ヲ計算シテ見ルト、第四型 B ヲ主トスル 68 例ガ有スル第四型 B 潰瘍數ハ合計 512 個デアルガ、第五型 B ヲ主トスル 13 例ガ有スル第五型 B 潰瘍總數ハ 46 個デアル。從ツテ潰瘍總數ノ實數ハ勿論、假リニ其例數ニ依ツテ潰瘍數ヲ除シテ得タ數ノ比ヲ見テモ、第四型 B ヲ主トスル例ニ於テ、其率ガ多イコトヲ示シテキル。

第 11 表 細長潰瘍ト漿液膜結核性反應トノ關係

細長潰瘍例數	潰瘍總數	小 腸						大 腸						廣汎性腹膜炎例數	
		潰瘍數	漿液膜反應				潰瘍數	漿液膜反應				+	-		
			卅	++	+	-		卅	++	+	-				
IVB型ヲ主トス	68	512	401	269	41	55	36	111	27	1	24	59	15	53	
VB型ヲ主トス	13	46	46	12	5	16	13							13	
IVB 殆ド同數	7	38	19	13	7	2	3	1	6			6	1	6	
VB			19	16	4	4	4	4	3			3			

次ニ第四型Bト第五型Bヲ殆ド同數ニ有スル7例ニ於テハ、其細長潰瘍總數38個デアツテ、其内第四型Bト第五型Bノ潰瘍數ハ各19個デアル。

次ニ小腸ト大腸トニ於ケル細長潰瘍數ノ比較ヲ見ルト、細長潰瘍ハ何レノ場合ニ於テモ、小腸ニ著シク多イ。即第四型Bヲ主トスル例ニ於テハ、潰瘍總數512個ノ内、401個(78.3%)ガ小腸ニ存シ、大腸ニハ111個(21.7%)見ラレルノミデアル。

次ニ第五型Bヲ主トスル例ニ於テハ、潰瘍總數46個全部ガ小腸ニ存シ、大腸ニハ見ラレナイ。第四型B、第五型B潰瘍ヲ殆ド同數ニ有スル例ニ於テハ、潰瘍總數38個ノ内、29個(76.3%)ガ小腸ニ存シ、大腸ニハ9個(23.7%)ニ過ギナイ。

3. 細長潰瘍ト漿液膜結核性反應トノ關係ニ就テ

第四型Bヲ主トスル68例ニ於テハ、第11表ニ示ス様ニ小腸ニ存スル第四型B潰瘍401個ノ内、漿液膜結核性反應ヲ有スル潰瘍ハ總計365個(91.0%)、而モ反應強度(卅)ナルモノハ、269個(67.0%)ヲ算スルノデアル。之ニ反シ、反應(-)ナルモノハ僅ニ36個(9.0%)ニ過ギナイ。次ニ大腸ニ於テハ、第四型B潰瘍111個ノ内、反應ヲ有スル潰瘍ハ52個(46.8%)デ、其内反應(卅)ナルモノハ、27個(24.3%)デアル。然ルニ反應(-)ナルモノハ、59個(53.2%)ニ達スル。

即第四型B潰瘍ヲ主トスル例ニ於テハ、其潰瘍ノ漿液膜ノ結核性反應ハ、小腸ニ存スル潰瘍ノ大多數ハ反應ヲ有シ、而モ反應強度(卅)ナルモノガ最も多イノデアルガ、大腸ニ於テハ、寧ろ反應ヲ缺ク潰瘍ガ稍々多イ數ヲ示シテキル。

次ニ第五型B潰瘍ヲ主トスル例ニ於テハ、第五型B潰瘍數46個ノ内、反應ヲ有スル潰瘍ハ33個(71.7%)デ、其内反應ガ輕度(十)ノ潰瘍ガ比較的の多ク、16個(34.7%)ヲ算スル、反應(-)ナルモノハ、13個(28.3%)デアル。而シテ反應強

度(卅)ノモノハ12個(26.1%)デアル。即第五型B潰瘍ヲ主トスル例デハ、比較的ニ反應ノ輕度ノ潰瘍ガ多イノデアル。

次ニ第四型B、第五型Bノ兩型ノ潰瘍ヲ殆ド同數ニ有スル例ニ就テ、其第四型B潰瘍ノ反應ヲ見ルト、小腸ニ於テハ、13個ノ潰瘍ノ内1個ヲ除ク外ハ皆反應ヲ有シ、而モ7個ハ反應強度(卅)デアルガ、大腸デハ、6個ノ潰瘍全部ガ反應(-)デアル。反對ニ第五型B潰瘍ノ反應ヲ見ルト、小腸ニ存スル16個ノ潰瘍ノ内、12個(75.0%)ハ反應ヲ有シ、残りノ4個(25.0%)ハ反應(-)デアル。而シテ反應ヲ有スル12個ノ潰瘍ハ反應強度(卅)、中等度(卅)、輕度(十)等何レモ4個デアル。大腸ニ存スル3個ノ潰瘍ハ反應(-)デアル。即第四型B、第五型Bノ兩型潰瘍ヲ殆ド同數ニ有スル例ニ於テハ、小腸ノ第四型B潰瘍ハ反應ヲ有スルモノ多ク、殊ニ強度ノ反應ヲ有スルモノガ約半數ヲ占メテキルガ、小腸ノ第五型B潰瘍デハ、反應強度ノ潰瘍ガ25.0%ニ過ギナイ。而シテ大腸ニ於テハ兩型ノ潰瘍共ニ反應ハ全ク(-)デアル。

(備考、第11表ノ最後ノ欄ニ載セテアル處ノ廣汎性腹膜炎ハ、腸ノ漿液膜ノミニ限ラレタ限局性ノ結核性腹膜炎ノミナラズ、腹膜ノ廣範圍ニ互ツテ結核性病變ヲ伴フ場合ヲ意味スルノヲ參考ノ爲附記シタモノデアル)。

以上ノ統計カラ考ヘテ見ルト、第四型Bヲ主トスル例ニ於テハ、第五型Bヲ主トスル例ニ比シ其細長潰瘍ノ漿液膜反應ハ強度(卅)ナルモノガ多ク、又一般ニ比較的デハアルガ、反應ヲ有スル潰瘍ガ多イ。第四型B、第五型Bノ兩型潰瘍ヲ殆ド同數ニ有スル例ニ於テハ、第四型Bノ潰瘍ニ、比較的、反應ガ著明(卅)ナ場合が多イ。又小腸ト大腸ヲ比較シテ見ルト、何レノ例ニ於テモ大腸ノ細長潰瘍ニハ反應ヲ見ルコトガ少イコトガ明ラカデアル。上述ノ關係ハ模型圖(第12表)ニ依ツテ見レバ明ラカデアル。

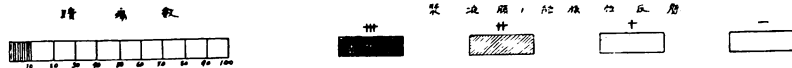
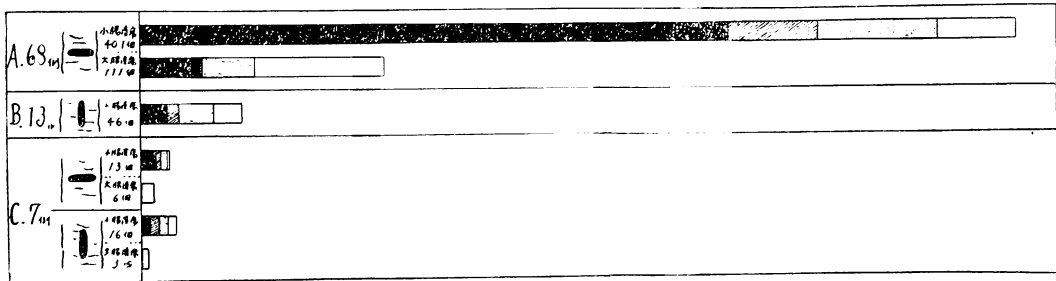
コノ表ニ於テ、Aハ第四型Bヲ主トスル例、Bハ第五型Bヲ主トスル例、Cハ兩者ヲ殆ド同數ニ有スル例ヲ意味シ、横ニ細長イ方形ノ長サハ、潰瘍數ノ多

少ヲ現ハシ、漿液膜反應ノ強弱ハ色別ニ依ツテ區別サレテキル。

次ニ上記ノ細長潰瘍ヲ有スル例ト、第四型B、第五型Bノ細長潰瘍ヲ全く有シナイ例トニ於テ其各ノ例ニ存スル各種ノ潰瘍ノ漿液膜反應ノ有無ヲ比較シテ見ルト、第13表ニ示ス様ニ、細長潰瘍ヲ全く有シナイ56例ニ於テハ、其存ス

ル總テノ潰瘍ニ反應ガ(-)ナル例ガ33例(59.1%)デアルガ、之ニ反シ細長潰瘍ヲ有スル例ニ於テハ反應(-)ナル例ハ6例(第四型Bヲ主トスル例)及1例(第五型Bヲ主トスル例)デ、何レモ15.0%以下ノ少數ヲ示シテキルニ過ギナイ。即細長潰瘍ヲ有シナイ例ハ、之ヲ有スル例ニ比スルト漿液膜ニ結核結節ヲ來ス例ガ少イコ

第12表 細長潰瘍ト漿液膜結核性反應トノ關係



第13表

檢 査 例		漿 液 膜 反 應	
細 長 潰 瘍 型	例 數	十 例	一 例
IVBヲ主トス	68	62	6
V Bヲ主トス	13	12	1
IVB、V Bヲ殆 ド同數有ス	7	7	0
細長潰瘍無シ	56	23	33

トヲ示シテキル。

4. 總括竝ニ考按

(1) 細長潰瘍(第四型B及第五型B潰瘍)ト、其漿液膜ノ結核性反應ノ關係ニ就キ統計的觀察ヲ試ミタ。

(2) 検査例144例中、細長潰瘍ヲ有スル例ハ88例(61.1%)、無イ例ハ56例(38.9%)デアル。

(3) 細長潰瘍トシテハ、第四型Bガ著シク多イ。即細長潰瘍ヲ有スル88例中、68例(77.2%)ハ第四型Bヲ主トシ、其第四型B潰瘍合計512個ニ達ス。13例(14.7%)ハ第五型Bヲ主トシ、其第五型B潰瘍合計46個デアル。

兩者ノ細長潰瘍ヲ殆ド同數ニ有スル例ハ7例

(7.9%)デ、其細長潰瘍合計38個デアル。

(4) 細長潰瘍ハ何レモ小腸ニ著シク多く、大腸ニハ少イ。

即第四型Bヲ主トスル例ニ於テハ、其有スル第四型B潰瘍ノ78.3%ハ小腸ニ存シ、大腸ニハ21.7%存スルノミデアル。

第五型Bヲ主トスル例デハ、其第五型B潰瘍全部ガ小腸ニ存スル。

第四及第五型B潰瘍ヲ殆ド同數ニ有スル例ニ於テハ其細長潰瘍ノ76.2%ガ小腸ニ存スル。

(5) 第四型B潰瘍ハ第五型B潰瘍ニ比較スルト一般ニ其漿液膜ニ結核性反應ヲ有スル潰瘍ガ多く、且ツ其反應強度ノ場合ガ多イ。

即第四型Bヲ主トスル例ニ於テハ、其小腸ニ於ケル同型潰瘍ノ内、漿液膜ニ結核性反應ヲ有スルモノノ91.0%(反應強度ノモノノ67.0%)ニ達シ、第五型Bヲ主トスル例ニ於テハ、其小腸ニ於ケル同型潰瘍ノ内、漿液膜反應ヲ有スルモノノ71.7%(反應強度ノモノノ26.1%)デアル。而シテ第四及第五型Bヲ殆ド同數ニ有スル例ニ於テハ、第四型B潰瘍ガ漿液膜反應著明ナ場合ガ多イ。

(6) 漿液膜ノ結核性反應ハ小腸ト大腸トニ依ツテ著シイ差異ガアル。小腸ニ著明デ、大腸ニハ少イ。

即第四型Bヲ主トスル例ニ於テハ、小腸ノ第四型B潰瘍ノ91.0%ニ漿液膜反應ヲ有スルモ、大腸ニ於テハ同型潰瘍ノ46.8%ニ反應ヲ有スルニ過ギナイ。

又第四及第五型Bヲ殆ド同數有スル例ニ於テハ、大腸ニ存スル細長潰瘍全部ガ反應ヲ缺イテオル。

(7) 細長潰瘍ナキ例ニ於テハ漿液膜反應ヲ有スル例ガ少イ。

即細長潰瘍無キ56例ニ於テハ、其全腸ノ潰瘍ニ漿液膜反應ヲ缺ク例ガ59.0%存スルガ、細長潰瘍ヲ有スル例ニ於テハ反應ヲ缺ク例ガ15.0%以下デアアル。

(8) 以上ノ統計ノ成績ニ依ツテ考フルニ、小腸

ト大腸トニ依ツテ細長潰瘍ノ頻度竝ニ其漿液膜反應ノ程度ニ著シイ相違ヲ來スコトハ、其解剖的構造及機能ノ差異ニ關スルモノト考ヘラル。第四型Bト第五型B潰瘍トノ頻度ニ著シイ差異ヲ有スルコトハ、腸ノ結核性潰瘍ハ主トシテ其淋巴管ノ經路ニ沿フテ進行スルト云フ特性ヲ示スモノデアツテ、第四型B潰瘍ニ於テ特ニ其漿液膜ノ結核性反應ノ著明デアアルコトハ、其淋巴管性轉移ノ盛ナルコトヲ示スモノデアアル。之ニ反シ第五型ハ主トシテバイエル氏板内小潰瘍ノ融合ニヨリテ生ジタモノデアツテ、必シモ淋巴管性轉移ヲ必要トセズ、バイエル氏板ノ形狀ニ從テ長軸ニ沿ウ細長ナ形ヲ現ハスモノデアアル。本稿ヲ終ルニ當リ、御校閲ヲ賜ハリタル東京市療養所長田澤鏖二博士ニ敬意ヲ表シ、終始懇切ナル御指導ト御校閲ヲ賜ハリタル岡治道博士ニ衷心感謝ノ意ヲ表ス。